

美しい森林づくり

「一貫作業システム現地勉強会」 ～無地拵の事業地で コンテナ苗植付けを体験～

宮城北部森林管理署

平成 29 年 10 月 27 日、登米市東和町の国有林において宮城北部森林管理署主催の平成 29 年度「一貫作業システム現地勉強会」を開催しました。



一貫作業の事業地

森林施業の低コスト化に向けた取組については、昨年度に引き続き、伐採と植栽の一括発注による一貫作業を実施することとなりました。

今回も、この一貫作業による主伐・再造林を民有林等へ普及させる観点から、管内の県地方振興事務所及び各市町の林務関係者をはじめ、広く関係者の出席をお願いし勉強会を実施しました。

当日は、宮城県東部地方振興事務所、同気仙沼地方振興事務所、登米市、宮城北部流域森林・林業活性化センター、森林整備センター東北北海道整備局、南三陸森林組合、東和町森林組合、(株)大場林産、北星林業(株)、宮城十條林産(株)、(有)早稲谷・菅原苗木店、宮城県農林種苗農業協同組合、仙台森林管理署及び宮城北部森林管理署の 40 名が参加しました。

開会に当たり相澤肇署長は「低コスト化を進めるに当たり、様々な技術革新が取り入れられているが、林業・木材産業の発展のため国有林も民有林と手を取り合って、取り組んでいきたい」と挨拶しました。

当該事業地は、57 年生のアカマツを主とした人工林で、伐採面積は 1.25ha、スギコンテナ苗 (2,200 本/ha) を植栽することとしています。立木の伐採、搬出は完了し、前日から植付けを始めました。

今回は、現場の作業等の説明とコンテナ苗の植付けの実演のほか参加者によるコンテナ苗の植付けの体験を行いました。

一貫作業による低コスト化の主なポイントは、地拵の省略とコンテナ苗による植栽です。地拵を省略するためには、全木集材を行い、枝条を森林作業道沿いに集積することで可能となります。また、コンテナ苗を使えば、林内にある程度枝条が残っていても早く、効率良く植えることができます。

コンテナ苗植付けの実演では、無地拵の状態で請負事業体の東和町森林組合により実施し、効率的に行う様子を見て頂きました。



コンテナ苗植付け実演

今回の勉強会のテーマは、どの程度の枝条整理で良いのか、枝条残存の目安を覚えることと、無地拵の皆伐箇所に、いかに効率良く苗木を植えられるか、コンテナ苗を使って実感することです。

参加者にも専用器具又は唐鋤を使って、コンテナ苗の植付けを体験して頂きました。



参加者による植付け体験

参加者からは、コンテナ苗の植栽は「時間はかからなかった」「スピード感が違う」などの感想がありました。

また、改良する点はないかという質問に対し、現場代理人である東和町森林組合の遠藤圭氏から、「苗木の運搬は人力で行ったが、9、10月に伐採すれば機械が使える、人工数をかなり圧縮できた」等のコメントを頂きました。

最後に「今後も一貫作業をはじめとする技術開発に率先して取り組み、民有林へその成果等示してまいります」と結び閉会しました。